

うっしっしいー情報2020

3月市



豊岡農業改良普及センター

3月11日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が66万4千円、雌が72万6千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	10	0.881	530,860	11	0.813	603,500	21	568,910
丹波篠山	7	0.949	692,529	10	0.837	741,950	17	721,600
丹波	26	0.953	691,985	18	0.804	656,517	44	677,475
朝来	10	0.965	694,760	11	0.876	820,800	21	760,781
播磨	21	0.957	675,138	22	0.807	603,800	43	638,640
美方郡	72	0.924	658,610	56	0.857	796,596	128	718,979
豊岡	28	0.917	650,493	21	0.845	713,848	49	677,645
養父	20	0.957	702,405	14	0.825	765,286	34	728,297
摂津・神戸	13	1.011	749,692	5	0.815	695,200	18	734,556
県北C	10	0.888	549,340	1	0.793	778,800	11	570,200
市場全体	217	0.937	664,491	169	0.836	726,371	386	691,584

3月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	照和土井	14	0.954	723,879	19	0.862	783,837	33	758,400
2	芳悠土井	35	0.959	716,226	36	0.863	726,153	71	721,259
3	丸池土井	24	0.909	654,500	29	0.831	765,903	53	715,457
4	丸明波	9	0.913	634,822	5	0.836	844,800	14	709,814
5	忠味土井	5	0.931	677,600	5	0.808	725,780	10	701,690
6	千代藤土井	17	0.950	692,676	4	0.831	719,950	21	697,871
	総計	217	0.937	664,491	169	0.836	726,371	386	691,584
7	丸宮土井	11	0.882	635,500	9	0.780	745,311	20	684,915
8	丸春土井	25	0.968	706,640	20	0.798	645,865	45	679,629
9	宮菊城	7	0.884	621,971	7	0.876	712,800	14	667,386

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	照和土井	A++ → A+	A++	B → C	B	A	A+
2	芳悠土井	A	A → B	B	B	B	A++
3	丸池土井	C	A+ → A++	C	B → A	A+	A++
4	丸明波	D	A++	D	B	A++	A+ → A++
5	忠味土井	- → C	- → A+	- → A	- → A	- → A+	- → A++
6	千代藤土井	A	A+++	D	A+ → A	A++ → A+	A+
7	丸宮土井	C	B	A	A++	A+	A+
8	丸春土井	C	C	B	B	B	A+
9	宮菊城	A	A+	A++	B	A+	A

北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和02年1月現在)

哺育期を押さえて、**発育のピーク**に備えましょう！ ～哺育期の飼養管理⑦～

今年度は「哺育期の飼養管理」について、給与する飼料や子牛を取り巻く環境の管理等について紹介しました。今月号はシリーズ「哺育期の飼養管理」の最終号となります。哺育期以降の管理についても少し触れつつ、今一度振り返っていきましょう。

○子牛管理マニュアル

昨年、「但馬牛子牛管理マニュアル」が改訂されました(図1)。今回は、このマニュアルの使い方について考えます。ぜひ、お手元の子牛管理マニュアルを見ながら読んでいただければと思います。本マニュアルでは、子牛の出生から出荷までを3つの期間に分け、期間ごとに行うべき飼養管理について示しています。

○各期における子牛の変化

子牛は器官が未発達の状態で生まれます。そのため、出生後に各器官が発達しますが、全ての器官が同時に発達するのではなく、骨格・筋肉→脂肪の順に発達します。また、子牛が栄養源として利用出来る飼料についても消化器官の発達に合わせて変化し、子牛の発育は3つの時期に分かれます。各時期について詳しく見てみましょう(図2)。

① 発育前期 「第一胃づくり」

出生直後の子牛は、体内に免疫や発熱に利用出来るエネルギーを持っていません。そのため、確実に初乳を給与する事で免疫系の獲得、エネルギーの補給をする必要があります。また、生後1ヵ月齢までの第一胃には微生物が住み着いていないため、固形飼料の分解が出来ません。子牛が栄養源として利用できるのは主に液体飼料であるため、母乳や代用乳で十分な栄養を給与しましょう。

生後1ヶ月齢を過ぎた頃から、第一胃に微生物が住み始めます。第一胃では、微生物がスターターを分解したときに出るVFA(酢酸、プロピオン酸など)や乾草の物理的刺激によって絨毛が発達し、成牛の胃へ近づきます。

② 発育中期 「骨格づくり」

この時期は、成長ホルモンの分泌量が最も多くなり、骨や筋肉の発達が盛んになる「発育のピーク」を迎えます。それに伴い、子牛が必要とする栄養も多くなります。しかし、まだ体が小さく一度に食べられる量が少ないため、配合飼料やバイパスタンプク質飼料(※)を積極的に給与し、子牛に十分な栄養を摂取させることで、発育量を確保しましょう。

③ 発育後期 「腹づくり」

成長ホルモンの分泌量が少なくなるため骨格や筋肉の成長も穏やかになります。そのため、余剰な給与エネルギーは脂肪として蓄積されます。この時に、4～6ヶ月齢の時と同じ飼養管理を続けていると過肥になります。粗飼料主体の飼養管理を行いましょう。

○哺育期の重要性

ここまで各時期の子牛の変化について見てきましたが、最も子牛の発育量が大きいのは発育中期です。しかし、前期の発育が不足し第一胃が出来ていないと、中期の発育のピークを迎えても、絶対的な食込み量が少なく、消化効率も悪いため十分な発育を得られません。**中期の発育のピークを活かすためには、哺育期の発育を確保することが重要です。**

哺育期の子牛は栄養源に出来る飼料に限られ、気温変化や病気に弱いといった発育不足となる要因が多く存在します。特に哺育期の管理は注意して行いましょう。

○発育のチェック

次の管理に移るための目安として、十分な発育が得られているか知る必要があります。そこで、本マニュアルでは発育目安として胸囲を記載しています。胸囲であれば、牛衡器や体高尺といった専用の道具がなくても身近にあるもので代用することが出来ます(写真)。また、胸囲は腹囲に比べ日中変化がほとんどないため、より正確に発育を知ることが出来ます。特に3ヶ月、6ヶ月齢は体の変化の転換期になるため、胸囲を測定し十分に発育しているか確認しましょう。



図1 但馬牛子牛管理マニュアル

発育前期 第一胃づくり(生後～3ヵ月齢)

体の変化: 免疫系の獲得、第一胃内細菌叢の発達、骨の成長、化学的・物理的刺激による第一胃内絨毛の発達

主な栄養源: 初乳、乳、スターター

発育中期 骨格づくり(4～6ヵ月齢)

発育のピーク

体の変化: 骨の成長、筋肉の成長、細菌叢の完成、器官の発達

主な栄養源: スターター、配合飼料、粗飼料

発育後期 腹づくり(7～9ヵ月齢)

体の変化: 脂肪の発達、筋肉の発達、骨の発達

主な栄養源: 粗飼料、配合飼料

図2 各期における子牛の成長と栄養源

※バイパスタンプク質飼料

第一胃の微生物に分解されないよう加工した飼料。第四胃の胃酸で分解され、直接牛がタンパク源として利用出来る。

裁縫用メジャー+重石で自作(マグネットなどをつけることで、測りやすくなります)



写真 子牛の胸囲測定

まとめ

- ・各発育段階に合った飼養管理を行いましょう
- ・哺育期は繊細です！注意して管理を行いましょう
- ・子牛がどのくらい発育したか、胸囲を測り確認を行いましょう